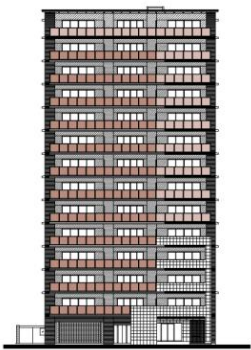


CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)熊本市新町 4 丁目プロジェクト	階数	地上14F
建設地	熊本県熊本市中央区新町四丁目 1	構造	RC造
用途地域	都市計画区域・準防火地域	平均居住人員	111 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年7月4日
敷地面積	748 m ²	作成者	(株)都市建築研究所
建築面積	334 m ²	確認日	2016年7月4日
延床面積	3,419 m ²	確認者	(株)都市建築研究所

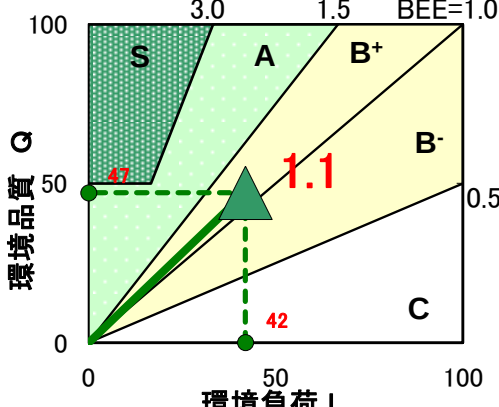


おけしてください。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1 ★★★★★

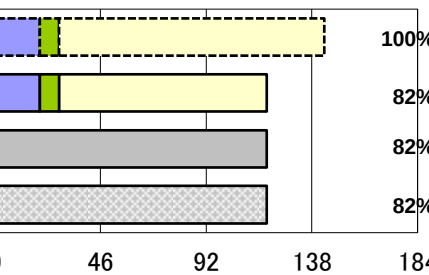
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

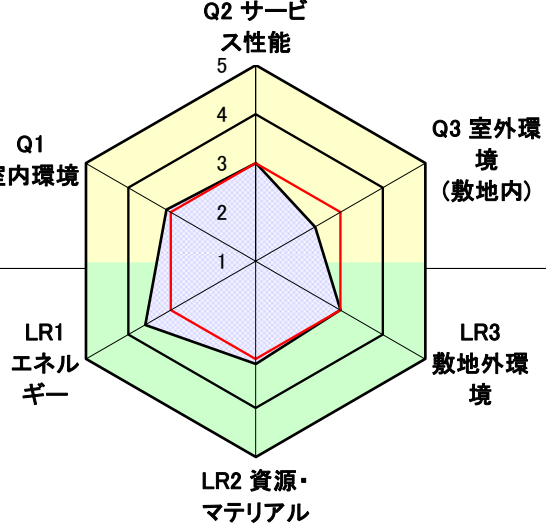
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

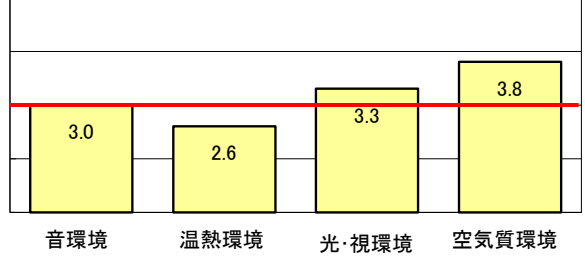
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



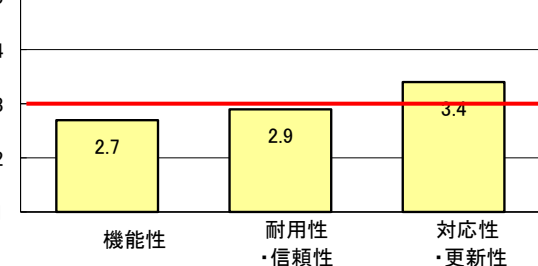
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

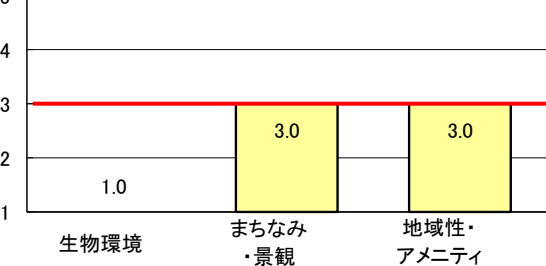
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

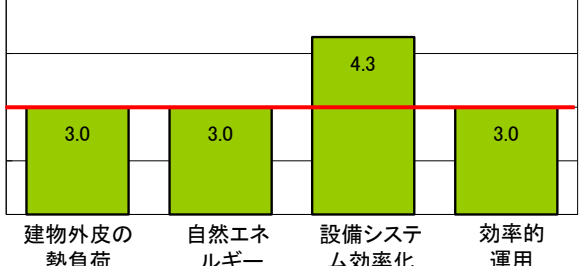


Q3 室外環境（敷地内） Q3のスコア= 2.4

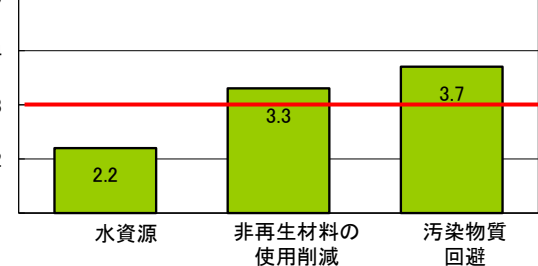


LR 環境負荷低減性

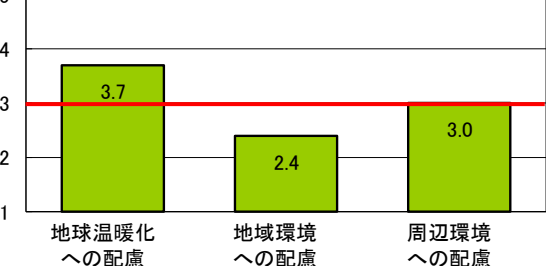
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6



LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.0



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 74



重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 82.2



重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 63.7



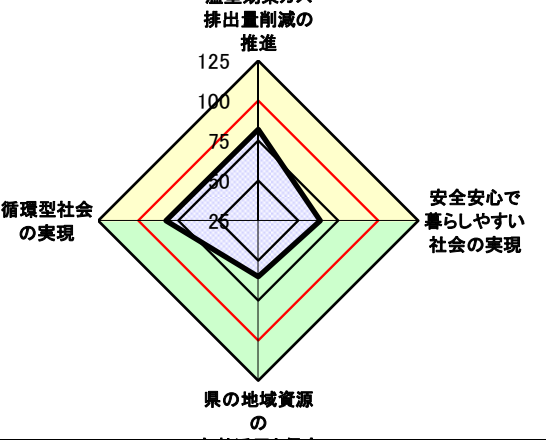
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0



重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 82.7



重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)熊本市新町 4 丁目プロジェクト新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)					
スコアシート 実施設計段階										
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.8	
Q1 室内環境						0.40		-	3.1	
1 音環境					3.0	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音					3.0	0.50	3.0	0.50		
1					開口部遮音性能	3.0	1.00	3.0		0.30
2					界壁遮音性能	-	-	3.0		0.30
3					界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	3.0		0.20
4					界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	3.0		0.20
1.3 吸音					-	-	-	-		-
2 温熱環境					2.6	0.35	2.6	1.00	2.6	
2.1 室温制御					3.0	0.50	3.0	0.50		
1					室温	3.0	0.63	3.0		0.63
2					外皮性能	3.0	0.38	3.0		0.38
3					ゾーン別制御性	-	-	-		-
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境							3.3	0.25		3.3
3.1 昼光利用			共用部(エントランス) 昼光率:6.5 / 住居部 昼光率:9.2		4.2	0.30	4.0	0.30		
1					昼光率	5.0	0.60	5.0		0.50
2					方位別開口	-	-	3.0		0.30
3					昼光利用設備	3.0	0.40	3.0		0.20
3.2 グレア対策					3.0	0.30	3.0	0.30		
1					昼光制御	3.0	1.00	3.0		1.00
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境					3.6	0.25	3.8	1.00	3.8	
4.1 発生源対策			内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	0.60	4.0	0.63		
1					化学汚染物質	4.0	1.00	4.0		1.00
2					アスベスト対策	-	-	-		-
4.2 換気					3.0	0.40	3.6	0.38		
1					換気量	3.0	0.50	3.0		0.33
2					自然換気性能	-	-	5.0		0.33
3					取り入れ外気への配慮	3.0	0.50	3.0		0.33
4.3 運用管理			居室面積の1/6以上の自然換気有効開口面積を確保		-	-	-	-		
1					CO ₂ の監視	-	-	-		-
2					喫煙の制御	-	-	-		-
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性					2.2	0.40	2.8	1.00	2.7	
1.1 機能性・使いやすさ			住居部の天井高:2.65m		3.0	0.40	3.0	0.60		
1					広さ・収納性	-	-	-		-
2					高度情報通信設備対応	-	-	3.0		1.00
3					バリアフリー計画	3.0	1.00	-		-
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40		
1					広さ感・景観	-	-	4.0		0.50
2					リフレッシュスペース	-	-	-		-
3					内装計画	1.0	1.00	1.0		0.50
1.3 維持管理					2.5	0.30	-	-		
1					維持管理に配慮した設計	3.0	0.50	-		-
2					維持管理用機能の確保	2.0	0.50	-		-
3					衛生管理業務	-	-	-		-
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震			床:フローリング、壁:ビニルクロス、天井:ビニルクロス		3.0	0.50	-	-		
1					耐震性	3.0	0.80	-		-
2					免震・制振性能	3.0	0.20	-		-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.1	0.30	-	-		
1					躯体材料の耐用年数	3.0	0.20	-		-
2					外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.20	-		-
3					主要内装仕上げ材の更新必要間隔	4.0	0.10	-		-
4					空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-		-
5					空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.20	-		-
6					主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-		-

2.4	信頼性			2.8	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1	空間のゆとり			-	-	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり	階高:2.91m	-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.25	-	-	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 ー 住宅(専有部) 0.98	4.3	0.50	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(3a.3b)				-	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				4.3	1.00	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			磁器質タイル・再生砕石	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材はA種(ノンフロン)を使用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 污水处理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

Q1 室内環境

内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用

Q2 サービス性能

内装仕上材は耐用年数の長いものを使用

Q3 室外環境（敷地内）

外構緑化指数=13.45%

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

グリーン調達品目の使用

LR3 敷地外環境

LCCO2排出率=81%

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)熊本市新町4丁目プロジェクト新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.2	0.40	32.88
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.3	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				63.7	0.20	12.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				82.7	0.20	16.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数